

令和4年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会議事要旨

日 時：令和5年2月27日(月) 10:30～12:00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

参加者：8名

天野慎介(全国がん患者団体連合会理事長)、井岡亜希子(まるレディースクリニック院長)、伊藤ゆり(大阪医科大学研究支援センター医療統計室室長・准教授)、埴岡健一(国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授)、平田哲生(琉球大学病院診療情報管理センター長)、伊佐奈々(琉球大学病院がんセンター・診療情報管理士)、増田昌人(琉球大学病院がんセンター長)、有賀拓郎(琉球大学病院診療情報管理センター副センター長)

欠 席：1名

東尚弘(国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センター長)

陪 席：1名

並里亜衣(琉大病院がんセンター事務)

≪報告事項≫

1. 令和4年度 第3回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料1に基づき令和4年度 第3回ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

2. その他

特になし。

≪協議事項≫

1. 第4次沖縄県がん対策推進計画 協議会案作成についての基本的方針について

増田部会長より、資料2に基づき第4次沖縄県がん対策推進計画(協議会案)作成の基本方針について説明があった。

天野委員より、前回の協議会で委員から県との連携を密にすべきだとの意見があったが、計画の素案の段階から県に関わってもらうことは可能なのかとの質問があった。増田部会長より、現段階では県との連携はできていないが、今後県とのアポイントを調整し、進めていく予定であるとの回答があった。

埴岡委員より、県とうまく役割分担をして連携できればよい、資料2について目的と意義があったほうがいいのではないかとの意見があった。

伊藤委員より、目標となる最終アウトカムが重要になっていくので、関係者で議論してそこに向かっていくロジックモデルを作成していく過程が重要ではないかとのコメン

トがあった。

井岡委員より、県の担当者と打ち合わせをしながら協議会案を作成してはどうかとの提案があった。埴岡委員より県が参加した場合の立場について質問があった。井岡委員より秋田県で作成した際は、県はオブザーバー的立場であったとの回答があった。

増田部会長より作成体制について、最終的にはベンチマーク部会でたたき台を作成し、その後6つの専門部会と幹事会で議論し、修正を行うとの説明があった。また4月10日（月）の幹事会までに案を完成することを目標にするとの説明があった。井岡委員よりスケジュールがタイトな為、スケジュールを立て直してはどうかとの意見があった。

埴岡委員より、沖縄県の本協議会いつ頃行われるかを把握し、タイミング、スケジュールを合わせていくことが重要であるとのコメントがあった。有賀委員より、県との意識のすり合わせが必要になってくるのではないかとのコメントがあった。

2. 作成スケジュールについて

増田部会長より、資料3に基づき協議会案作成の基本スケジュールについて説明があった。スケジュールについては県と調整しながら修正していくとの説明があった。今後ベンチマーク部会を1ヶ月に1回のペースで開催する予定であるとの説明があった。

井岡委員より、個別分野の決定と分野アウトカム、中間アウトカム、個別施策の内容の決定を4月までに行ってはどうかとの意見があった。また県と一緒に作成できるのであれば、12月もしくは1月の完成を目指してスケジュールを立ててはどうかとの意見があった。

3. 協議会案で使用するロジックモデルと指標リストのフォーマットについて

4. ロジックモデル 最終アウトカム、分野アウトカム、中間アウトカムのみ

増田部会長より、資料4、資料5に基づきロジックモデルのフォーマットについて説明があった。埴岡委員より、現在県が使用しているロジックモデルを基に説明があり、指標リスト、指標の定義づけ等のリストも必要になってくるのではないかとのコメントがあった。

平田委員より、行政がどこを重点的にやりたいのかで、力を入れるところも変わってくるのではないかとの意見があった。埴岡委員より効果のある施策、地域にあった施策を行うのが重要で、重点項目を絞っていくことが必要なのではないかとのコメントがあった。

井岡委員より、がん対策はやるべきことが多いため個別分野をどれだけスリム化させるか・強弱をつけるかがポイントになってくるのではないかとの意見があった。

伊佐委員より、行政へのレクチャー資料作成等を直前期に井岡先生と確認したいとの意見があった。

5. 今後の開催日程について(令和5年度)

増田部会長より、日程調整を再度お願いするとの説明があった。

6. その他

特になし。